

部局FD活動報告

①都市教養学部 人文・社会系／人文科学研究科		
取り組みの現状	学生による授業評価等	昨年度各分野・教室で話し合ったFD方針に基づき、今年度の方針をそれぞれ検討した。それに基づき、後期の授業を対象として学生の声を吸い上げる活動を行った。分野・教室ごとに事情が異なるため、学系／研究科で統一したアンケートは実施しなかった。 分野・教室ごとのFD活動内容としては、たとえば、授業に対し自由記述で学生に意見を述べてもらう、レポートに感想を書き添えてもらう、授業の中で随時意見交換する、教員間で学生から出された意見を共有する、教室独自のアンケートを作成・実施する、教員・助教・学生による三者懇談会の場を活用する、などである。
	研究会・講演会・セミナー等	FD活動のテキスト的な書籍（池田輝政他『成長するティップス先生』玉川大学出版部、2001年）を購入し、人文・社会系／人文科学研究科の構成メンバー全員に1冊ずつ配布した。 人文・社会系／人文科学研究科独自の講演会やセミナーは開催しなかったが、全学FD委員会が開催するセミナー等を案内し、参加を呼びかけた。
	外部評価等	
今後の予定・展望		現在は、個別事情に合わせて分野・教室ごとにFD活動を行っているが、今後はその中で得られた学生の声や有効なFD方策、質問項目等を集約し“FD活動の知恵袋”のような形で共有していく予定である。また、合わせてFD活動に関する教員の意識向上もはかっていきたい。

②都市教養学部 法学系法律学コース・政治学コース		
取り組みの現状	学生による授業評価等	現在、通年開講の専門教育科目（15科目）を対象とした、学生による授業評価アンケートを実施中である（1月23日現在）。 年度末までに、法学系FD委員会において集計結果をまとめ、各担当教員にフィードバックし、来年度以降の教育活動の改善に役立ててもらおう予定である。
	研究会・講演会・セミナー等	「法学系FD委員会」（「大学院社会科学研究所法学政治学専攻FD委員会」と合同。大学院（社会科学研究所法学政治学専攻）主任、FD委員、教務委員、基礎教育部会委員で構成）において、授業評価アンケートの質問項目の選定をはじめ、法学系のFD活動のあり方について議論をした。
	外部評価等	
今後の予定・展望		○これまでに6年度にわたって実施した授業評価アンケートの結果を、個々の教員のレベルにおいて、自らの担当する授業や教育環境の改善に反映させていく。 ○法学系のFD活動のあり方に関する法学系FD委員会における議論をより活発化させる。 ○各専門領域の教員間で、カリキュラムや講義のあり方について検討する機会を定期的に設け、法学系全体の教育効果の改善・充実につなげていきたい。

③社会科学研究科 法学政治学専攻		
取り組みの現状	学生による授業評価等	各クラスの受講者数が極めて少ないため、学生による授業評価はなじまない。授業の効果は、研究者養成を主眼とする大学院の場合、修士論文・博士論文といった成果によって、間接的に評価されるべきものと考ええる。
	研究会・講演会・セミナー等	(全体) 「法学系FD委員会」(「大学院社会科学研究科法学政治学専攻FD委員会」と合同。大学院(社会科学研究科法学政治学専攻)主任、FD委員、教務委員、基礎教育部会委員で構成)において、社会科学研究科法学政治学専攻のFD活動のあり方についても検討した。 (法律学分野) スタッフ・院生全員が参加する「法律学総合演習」を定期的で開催し、研究・教育水準の向上に努めている。 (政治学分野) ○3月・8月を除く毎月、教員・院生全員が参加する「政治学総合演習」を開催し、研究・教育水準の向上に努めている。 ○上記「政治学総合演習」終了後、政治学分野の教員による「スタッフミーティング」を開催し、大学院の教育及び研究指導等に関する意見交換を行い、実質的なFD活動を行っている。 ○2007年度から、新たに「政治学FD会議」を設置した。今年度は、前期2回(4月16日(土)、7月16日(土))、後期2回(10月15日(土)、1月21日(土))開催した。政治学FD会議は、政治学分野に所属する全教員・院生で構成される。学期初の回(4月・10月)では、教員が当期の講義・演習の概要・趣旨等を説明し、意見交換を行う。これを踏まえ、学期末の回(7月・2月)では、学期初に掲げた授業目標の達成度等に関する情報交換を行うと共に、講義・演習に参加した院生との意見交換を行い、授業内容の改善に努めることとしている。この取り組みは、過去5年間の実績の検証も踏まえ、来年度も継続していく予定である。
	外部評価等	
今後の予定・展望		第三者評価機関による大学機関別認証評価が義務付けられていることに加え、2007年度から大学院FDの実施が求められていることから、法律学・政治学総合演習等を中心とした自己点検・評価及びFD活動のさらなる充実に向けた検討を、法学系FD委員会を中心に行っていく予定である。

④社会科学研究科 法曹養成専攻		
取り組みの現状	学生による授業評価等	2004年度設置以降、各年度とも学期ごとに、法科大学院の教育等の改善及び充実のためのアンケート調査を、すべての法科大学院生を対象に実施している。このアンケート調査において、すべての授業科目について学生による授業評価を行うとともに、あわせて授業内容や方法、学習支援体制(オフィスアワーなど)、施設や設備等に対する要望等を尋ねている。授業評価のほか、授業に関する要望について当該科目の担当教員にフィードバックし、教育活動等の改善に役立っている。また、このアンケートで挙げられた要望等をFD会議で検討し、学習環境の改善に役立っている。
	研究会・講演会・セミナー等	①FD会議等の実施 毎月1回、授業を担当する教員から構成されるFD会議を開催し、学生の学習状況や授業方法等についての情報の共有化を図るとともに、法科大学院における教育等についての意見交換を行っている。さらに、専門領域ごとにFDに関するミーティングを適宜開催している。 ②各種の団体が実施するセミナー等への参加 法科大学院教育、新司法試験、第三者評価等に関して、法科大学院協会、大学評価・学位授与機構、日弁連等の各種団体が実施する検討会やセミナー等に参加している。
	外部評価等	2004年度は、法科大学院設置申請に際して、文部科学省による教員審査を受けている。また、2004年11月、2005年7月に文部科学省による法科大学院設置年次計画履行状況実地調査を受け、2006年11月に、文部科学省による法科大学院設置計画履修状況面接調査を受けた。さらに、2008年度には、法定化されている大学評価・学位授与機構による法科大学院認証評価(第三者評価)を受け、適格の認定を受けた。 なお、2007年度以降、法科大学院の各年度における自己点検・評価結果については、外部委員による評価を行い、年度ごとの自己評価書を公表している。
今後の予定・展望		2008年度の法科大学院認証評価の結果を踏まえ、法科大学院における教育・研究の質の向上を実現すべく、上記のような取り組みを継続する。 しかし、継続的に上記のような取り組みを実施し、法科大学院をよりよいものとするために人的体制を整備する必要があることは、文部科学省による法科大学院設置計画履修状況の面接委員、法科大学院認証評価結果等において指摘されているところである。 したがって、今後も、優秀な教員を採用するための人事枠・制度の拡充、正規雇用職員の増員を中心とする事務体制の整備、これらを可能にする予算措置を至急講じなければ、適正な法科大学院の運営はきわめて困難である。

⑤都市教養学部 経営学系

取り組みの現状	学生による授業評価等	本年度は前期（6月6日から6月17日）と後期（11月14日から11月26日）の2回、学生による授業評価アンケートを実施した。それぞれ44科目と5科目の規模で行った。
	研究会・講演会・セミナー等	経営学系では基礎数学・基礎経済学など複数の教員が担当する科目があるが、本年度はこれらも含め中長期的なローテーションの予定を整備し、学生サービスの維持向上のための検討を行った。
	外部評価等	
今後の予定・展望		アンケート調査だけに頼るのではなく、教員間で頻繁に意見を交換し合うことで、授業内容等の改善に取り組んでいく。

⑥ビジネススクール

取り組みの現状	学生による授業評価等	本年度は前期（7月10日から7月23日）と後期（1月21日から2月4日）の2回、学生による授業評価アンケートを実施した。それぞれ29科目と29科目の規模で行った（本調査票記入日において後期の結果はまだでていない）。
	研究会・講演会・セミナー等	昨年度からの研究教育プロジェクトとして関連領域の教員による集団的な指導の体制を整え、学生への研究・教育指導の一層の向上を図った。
	外部評価等	
今後の予定・展望		アンケート調査だけに頼るのではなく、教員間で頻繁に意見を交換し合うことで、授業内容等の改善に取り組んでいく。

⑦ 都市教養学部 理工学系		
取り組みの現状	学生による授業評価等	(1) 理工学系6コースのすべての専門科目の授業評価 (SEおよびTE) を実施した。集計結果は個々の担当教員に示すと同時に理工FD委員会で討議し、課題や授業改善の到達状況を共有化することに努めた。また昨年からは始めたアンケート結果の経年変化のグラフ化を、今年度は過去4年間のデータを元に行い、概ね評価が上昇していることを確認すると共に、今後の課題の検討を行った。 (2) 理工学系共通基礎科目のアンケート結果から、学生の授業外学習時間が昨年度から減少に転じたことに危機感を持ち、解決策を検討している。クラスサイズと学習時間の相関が一つの重要な検討資料になると考え、全学委員会に必要なデータの提供を依頼した。 (3) 理工学系共通基礎科目・専門科目のすべてについて、各教員が行った成績評価の結果を集計し、評価基準について議論した。今年度は新たな試みとして、理工学系全体および各コースにおける専門科目の成績評価の平均値の経年変化をグラフ化し、最近4年間で各コース間の差が大幅に減少したことを確認した。
	研究会・講演会・セミナー等	毎月理工学系FD委員会を開催し、各コースにおけるFD活動の報告と意見交換を行うと共に、授業アンケートの方法、成績評価基準、セミナー実施など理工学系として検討すべき事項について議論をしている。今年度は理工学系独自のセミナーは実施せず、全学委員会が10月に実施したFDセミナーにおいて、本学教員による「アクティブラーニング」の実践例に関する講演を行う講師を派遣した。
	外部評価等	昨年度 (22年度) 9月に実施された全学の認証評価において、理工学系のFD活動に関する指摘は特になかった。ただし大学全体に対して、「GPAやCAP制について、大学全体としての方針を定める」という指摘事項があり、第2期中期計画においても、成績評価の考え方・方針・水準等に関する共通理解・認識を一層深めることとなっている。今年度からは始めた成績評価の経年変化のグラフ化は、このための重要な資料になると考えている。
今後の予定・展望	従来から行っている検討に加えて、昨年度から開始したアンケート結果の経年変化のグラフ化を継続し、授業評価アンケート結果を具体的かつ有効な改善内容に結びつけるシステムとして定着させる。また今年度からは開始した成績評価の経年変化のグラフ化についても引き続き行い、理工学系としての方針検討の資料とする。	

⑧理工学研究科		
取り組みの現状	学生による授業評価等	6専攻において個々に大学院生に対するアンケート調査などを行い、理工学系FD委員会でその結果を審議した。大学院生の場合、授業を受講する時間より、研究室で研究活動に費やす時間が圧倒的に多いことを考慮して、大学院講義に対する評価に加え、研究に対する満足度、研究環境、並びに研究、勉学へのサポート体制に対する要望収集も質問項目に含めた。FD委員会のみでは改善が困難な場合は、適宜教務委員 (大学院担当)、専攻長、研究科長等と相談し、改善を図った。
	研究会・講演会・セミナー等	理工学研究科では、各専攻においてカリキュラムや講義内容を検討する会合を持ち、授業改善と研究環境改善に関する施策を日々行っている。また毎月理工学研究科FD委員会を開催し、各専攻におけるFD活動の報告と意見交換を行うと共に、学生アンケートの方法など理工学研究科として検討すべき事項について議論をしている。今年度は理工学系独自のセミナーは実施せず、全学委員会が10月に実施したFDセミナーにおいて、本学教員による「アクティブラーニング」の実践例に関する講演を行う講師を派遣した。
	外部評価等	昨年度 (22年度) 9月に実施された全学の認証評価においては、理工学研究科のFD活動に関する指摘は特になかった。
今後の予定・展望	4年前からは始めた大学院FD活動の実施状況をまとめると共に、実施方法の一層の改善を図る。	

⑨都市環境学部/都市環境科学研究科		
取り組みの現状	学生による授業評価等	当該年度の前期および後期の各コース専門科目について、従前通り学部学生による授業評価アンケートを実施した。対象科目は原則として、非常勤担当科目、実験・演習科目、受講者数が10名程度以下の科目、を除く全科目とした。アンケートは各科目の担当教員に対しても実施し、アンケート結果および自由記述の内容を各担当教員に配布し授業改善に努めた。
	研究会・講演会・セミナー等	全学で実施するFDセミナーや講演会に参加し授業改善のための情報収集を行った。
	外部評価等	
今後の予定・展望		学生による授業評価・教員による授業評価を有効に活用して授業改善の取り組みを今後も原則として継続する予定である。

⑩システムデザイン学部		
取り組みの現状	学生による授業評価等	システムデザイン学部で開講された授業（演習、実験科目を除く）について、学生による授業評価アンケートを前期開講科目については2011年7月、後期開講科目については2011年12月～2012年1月に実施した。アンケート結果を各科目毎にまとめ、各授業担当教員にフィードバックし、又、SD学部・研究科FDニュースとして配布を行い、授業改善に努めた。尚、今年度からは授業担当者による任意の質問を2項目設け、授業担当教員が知りたい事項についてのアンケートを行えるようにした。又、自由記述欄のフィルタリングについては、辛辣な表現であっても授業担当者へそのままフィードバックを行うことについて部会にて協議したが、SD学部では今年度からこれを実施した全学での授業評価アンケートでの結果を見て、来年度の審議事項として申し送ることとした。
	研究会・講演会・セミナー等	2011年10月6日開催の首都大学東京FDセミナー“単位制度の実質化の具体策”「大学らしい知にこだわったアクティブラーニング-ちょっとした工夫で可能な学生の能動的な学び-」について、テレビ会議システムを用いて日野キャンパス会場への中継を行った。
	外部評価等	
今後の予定・展望		今後も学部・研究科合同のFD部会を定期的で開催し、全学FD委員会との連携、FDの共通認識の形成、具体的取り組みの実施検討を行う。SD学部実施の授業評価アンケートについて、その自由記述欄のフィルタリング方針を来年度中に決定する。更に、アンケートの質問項目の再検討や個々の教員の授業改善へ繋げて行く方策などを検討したい。

⑪システムデザイン研究科		
取り組みの現状	学生による授業評価等	システムデザイン研究科で開講された授業（演習、実験科目を除く）について、学生による授業評価アンケートを前期開講科目については2011年7月、後期開講科目については2011年12月～2012年1月に実施した。アンケート結果を各科目毎にまとめ、各授業担当教員にフィードバックし、又、SD学部・研究科FDニュースとして配布を行い、授業改善に努めた。尚、今年度からは授業担当者による任意の質問を2項目設け、授業担当教員が知りたい事項についてのアンケートを行えるようにした。又、自由記述欄のフィルタリングについては、辛辣な表現であっても授業担当者へそのままフィードバックを行うことについて部会にて協議したが、SD研究科では今年度からこれを実施した全学での授業評価アンケートでの結果を見て、来年度の審議事項として申し送ることとした。
	研究会・講演会・セミナー等	2011年10月6日開催の首都大学東京FDセミナー“単位制度の実質化の具体策”「大学らしい知にこだわったアクティブラーニング-ちょっとした工夫で可能な学生の能動的な学び-」について、テレビ会議システムを用いて日野キャンパス会場への中継を行った。
	外部評価等	
今後の予定・展望		今後も学部・研究科合同のFD部会を定期的で開催し、全学FD委員会との連携、FDの共通認識の形成、具体的取り組みの実施検討を行う。SD研究科実施の授業評価アンケートについて、その自由記述欄のフィルタリング方針を来年度中に決定する。更に、アンケートの質問項目の再検討や個々の教員の授業改善へ繋げて行く方策などを検討したい。

⑫健康福祉学部		
取り組みの現状	学生による授業評価等	荒川キャンパスFD部会を6回、又、適宜メール会議を行った。健康福祉学部専門科目について、非常勤講師による授業も含め前期・後期の授業アンケートを実施した。
	研究会・講演会・セミナー等	本年度から大学院・学部セミナーは合同して行うことになったため、今年度は開催しなかった。京都大学高等教育研究開発推進センター第83回公開研究会「大学教育におけるポートフォリオの活用-授業改善からカリキュラム改善へ-」（2月12日）に2名の教員を参加させた。
	外部評価等	
今後の予定・展望		先進的なFD活動をしている保健医療系大学への訪問調査 FD関連書籍、報告書の収集

⑬人間健康科学研究科

取 り 組 み の 現 状	学生による授業 評価等	荒川キャンパスFD部会を6回、又、適宜メール会議を行った。
	研究会・講演 会・セミナー等	○平成23年7月9日に大学院セミナーを開催した。 講演 人間健康科学研究科の研究教育の方向性 講師 木下正信研究科長 及び 各研究科長及び代理による研究の紹介 ○京都大学高等教育研究開発推進センター第83回公開研究会「大学教育におけるポートフォリオの活用－授業改善からカリキュラム改善へ－」（2月12日）に2名の教員を参加させた。
	外部評価等	
今後の予定・展望		先進的なFD活動をしている保健医療系大学への訪問調査 FD関連書籍、報告書の収集

